風水師が伝える 不動産の「運気上昇」術

不動産を選ぶとき、風水を気にする経営者は少なくないと言われる。オフィスビルやテナントビルでは、立地や方角、入り口の位置などを気にするケースも多い。今回は風水の専門家3名に、「風水」について話を聞いた。

中国で生まれ発展した風水

不動産を選ぶ際のものさしに

既存ビルの風水的課題にはリノベが有効

▲風水で利用する羅盤(らばん)

海外では運も実力のうち 掃除で運気を変える

華蓮
風水師
宙SORA氏

華蓮(大阪市福島区)の風水師 宙SORA氏は、開運グッズや盛り塩などに頼らない「スタイリッシュ風水®」を提唱している。

「風水は元々中国で生まれ発展してきた」と語る。王朝が都をどこに置くか、墓所をどこに建てるのかといった重要な決定の際に活用された。日本でも平安京などが風水を基に築かれている。江戸時代には、徳川家康が中心地となる江戸城の建築と江戸のランドスケープに風水を用いたとされる。

風水には大きく2つに分けて巒頭(らんとう)風水と理気(りき)風水の流派がある。巒頭風水は立地や周辺環境を見る。例えば前方に広がりがあるか、背後に守りとして別の建屋があるか、交通の量は適切かなどを見る。理気風水は、方位や間取りを時間軸(建築年)と組み合わせて、どこが吉方になるかを判断する。宙SORA氏は巒頭風水と理気風水をスマートフォンのハードウェアとアプリケーションに例え、「どちらが欠けても動かないため、両方をバランスよく整えることが大事だ」という。

既存のビルが風水的に問題があっても、対応法はある。リノベーションをするのが良い。「リノベーションが不可能な場合は、クロスの張替えやオフィスのレイアウトの変更、家具を移動するなどでも運気を変えられる」(宙SORA氏)

また掃除の大切さについても「どんなに風水的に完璧な物件だとしても、散らかせば0点です」と語る。「とある会社から、トラブルが続くため風水鑑定を依頼されました。店舗はとてもきれいですが、バックヤードがストックの山になっていました。山積みの商品の隙間で、従業員がお弁当を食べているような状況です。原因はバックヤードにありと判断しました。スタッフの休憩室と倉庫を分けて、徹底的に大掃除をした結果、翌年の売り上げが200%になったということがありました」と具体的に語った。

オフィスは清掃スタッフがいるのできれいだが、自宅がゴミ屋敷になっていた例も。経営者の自宅が会社の運気に影響している例だという。業績が良くないときは、会社だけでなく自宅の掃除をしてみることも大事。すっきりした部屋で、判断力・決断力をまず上げてみるのも一法だと指摘する。

宙SORA氏は最後に「海外では運も実力のうちということで、風水をビジネスの一環として取り入れている大企業が多いです。日本でも色々な方に、もっと運というものを身に付けていただけたら。日本企業を元気にするサポートをしたいなと思っています」とした。

風水とは氣を通すこと 入り口の場所が重要

KAIUN
風水師
天野 千恵里氏

KAIUN(京都市下京区)の天野千恵里氏は、一級建築士であり風水師。YouTube「開運風水チャンネル」で風水等について配信している。

住宅やビルなど様々な物件を風水鑑定してきた天野氏は、「風水とは氣(本来の字のため、気ではなく氣の文字を使用)を通すことがメインです。氣というのは見えないエネルギーであり、エネルギーがどれだけ建物に入ってくるかによって氣運が変わります。氣運が変わるとそこを使う人々の運氣が変わります。運氣がいい建物だと、物事が上手くいくようになり、成功を手元に引き寄せやすくなります。人間関係・財運・健康を変えていくのが、風水における三本柱と言われています」(天野氏)

また天野氏は、「風水と家相について、混同されていることが多いので、注意が必要です」と言う。家相は日本で広まった考え方だが、天野氏が重んじているのは中国伝統風水であり、統計学だ。「統計学であるから、成功率が高くなります」と強調する。「鬼門や裏鬼門などをすごく氣にされる人がいますが、これは日本由来の家相であり、現在の建物には通用しないことも多いです。これは風水とは一部共通項もありますが、風水とはちがうものになります」(天野氏)

風水において重要なのは、場所と建物そのもの。同じ道路沿いの店でも、繁盛している店と何度もテナントが入れ替わってしまう店がある。建物がどこに建てられているのかにより、周りから強い影響を受ける。繁盛している店がある場所は、良い氣のエネルギーが入る強い場所ということになる。逆の場合も然り。

建物自体に氣が入りやすいかどうか、風水では大切。同じ建物の同じフロアにある物件でも、入り口の場所が違うと入ってくる氣が変わる。人に誕生日があるように、実は建物もいつ建てられたかによって建物に性格の違いが出る。その組み合わせをみるのが風水。場所はいいが建物自体が弱かったりすると、運氣が下がり、そこに入居した人がうまくいかないことがある。弱点があったら、これをどう変えていくかを分析し、修正していくことが大切であり、それを可能にするのが風水だと言う。

あるオフィスでは、人間関係に悩んでいた。社長の席が悪い場所に、問題のある社員の席が良い場所にあった。そこで社長が良い席になるよう、席替えを行った。また氣の流れが入り口で滞っていたため、パーティションでレイアウトを変えて氣の流れを変えたという。そうすると問題のある社員が辞め、売り上げも上がった。

天野氏は、「風水とは、人生の必須条件だと思っています。少しでも多くのお客様に本当の風水を使っていただき、良い運氣を手に入れるお手伝いをしたいです。例えばオフィスですが、昼間の労働時間が長いので、そこが快適で氣運がいいと、仕事が楽しく捗ります。今後はオフィスや店舗関係に力をもっと入れていきたいと思っています」と語った。

大事なのは土地の質 地下水脈の影響も

気の里麒麟堂
実践風水師
千堂 霊山氏

気の里麒麟堂(横浜市青葉区)の実践風水師千堂霊山氏。

千堂氏は「大切なのは場所に行くことです。その土地を見るのが風水。土地にはその土地の質というものがあり、そこから気の流れが分かります」と言う。千堂氏は図面や住所だけで判断するのではなく、実際にその場所へ行くことを重視している。

風水における地相では良い場所(吉相)や逆に避けた方がいい場所(凶相)がある。凶相と言われるのは三角形の土地やT字路の突き当りの土地、囲まれている土地などだが、千堂氏は地下水脈も重視している。地下に大きく帯水脈がある場合、人体に影響があるという見方だ。問題への対処方法は、初歩的な塩や神酒などを利用するものから風水師の風水道具を用いるものまで様々。

新しく建物を建てるときに、土地のエネルギーを整えるため水晶を地中に埋めることがある。千堂氏は独自に考案した「竹管法(ちっかんほう)」と呼ばれる方法を用いる。土地の環境を整えることで、外部からの邪気の侵入を防ぐ施工を行っている。すでに建物がある場合には、白ヒスイを置いてもらうこともあるという。千堂氏は白ヒスイを購入する際のアドバイスもしている。

千堂氏は「ラッキーカラーがどうのというのは風水ではありません。私は40年間風水をやっています。私は風水で大切な考え方は、環境である『天』、地面・地形である『地』のほかに、『人(じん)』であると思っています。例えば会社の社長を例に挙げると、苦労している時代はいいですが、出世していくと、天は様々な試練を与えて人を試します。その時にどうふるまえばいいのかを伝えます」と風水の奥深さを語った。

様々な解釈やアプローチの方法のある風水。

効率や合理性だけでは解決のできない課題に直面した時、それは風水の視点が生きる場面かもしれない。関心を持った方は、一度専門家に相談してみるのも一つの選択肢ではないだろうか。

事業相談から設計施工・運営管理まで
一気通貫したサービスで高収益化を実現

200坪以上の1棟ビル、事務所、倉庫、住宅、寮、ホテル、商業施設等
渋谷区・港区・中央区・新宿区・千代田区・目黒区・世田谷区・品川区

買取事業 マスターリース事業 プロパティマネジメント事業

株式会社リアルゲイト
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-51-10

宅地建物取引業 東京都知事 (4) 90947
建設業許可 東京都知事許可 (特-6) 第151421号
一級建築士事務所 東京都知事 第62066号

TEL 03-6804-3944
[営業時間] 10:00-19:00 [定休日] 土日祝日

E-mail info@realgate.jp
URL https://realgate.jp

リアルゲイト